

EU Indicators

欧州経済指標コメント：7月英国消費者物価

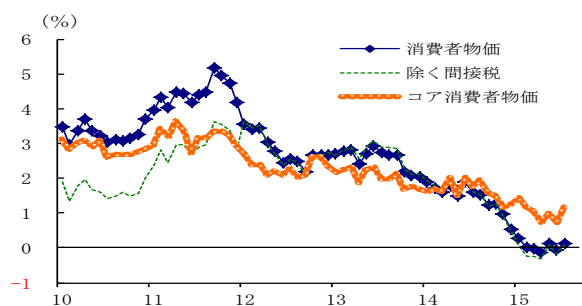
発表日：2015年8月18日(火)

～近づく利上げ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

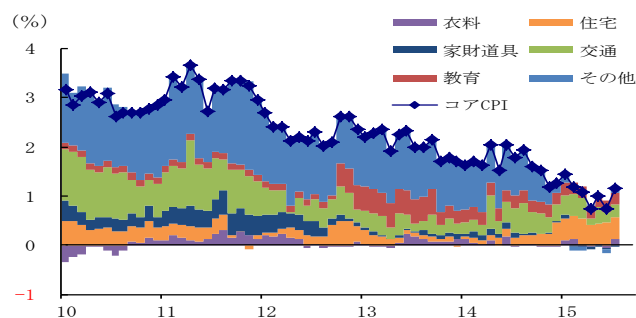
- 7月の英国の消費者物価は前年比+0.1%と前月の同横這いから僅かに上昇率が加速。内訳は、エネルギー（前月：同▲6.1%→今月：同▲6.7%）、食料品（同▲2.2%→同▲2.7%）、アルコール飲料（同▲2.2%→同▲2.4%）のマイナス幅が拡大したほか、たばこ（同+5.7%→同+5.2%）の上昇率が鈍化した一方で、コア物価（同+0.7%→同+1.2%）の上昇率が2月以来の水準に加速した。
- 前月対比でコア物価の上昇率を押し上げたのは、衣料品（同▲0.7%→同+2.3%）、カーテン（同▲0.9%→同+1.3%）、家財道具（同▲0.2%→同+0.4%）、医薬品（同+0.9%→同+2.6%）、輸送サービス（同+1.3%→同+3.1%）、電話代（同+1.0%→同+1.4%）、耐久娯楽財（同+1.6%→同+2.2%）、庭・ペット（同▲2.4%→同▲0.9%）、保険（同+1.2%→同+1.4%）、金融サービス（同▲2.1%→同▲1.0%）など。このうち衣料品は前年同月の大幅値引きの反動が影響した模様だが、かなり幅広い費目がコア物価を押し上げた。
- BOEのフォース政策委員は17日の英紙への寄稿で、金融政策運営において2～3年先のインフレ予想を重視していることに触れた。エネルギー価格の下押しや大手スーパーの値引き合戦が足許のインフレ率を下押ししているものの、茲許の原油価格の一段安にもかかわらず、前年比でのエネルギー価格の押し上げは来年初にも剥落し、その後は物価の押し上げ要因となる可能性が高い。コア物価の上昇率加速は、足許の労働需給の逼迫と相俟って、利上げ開始時期が近づいていることを示唆する。

■英国：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く
 出所：英統計局

■英国：コア消費者物価の要因分解（前年比）



出所：英統計局

■英国の消費者物価（%）

		2014				2015								
		3Q	4Q	1Q	2Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
消費者物価	(前期比)	0.0	0.1	-0.7	0.6	-0.3	-0.0	-0.9	0.3	0.2	0.2	0.2	0.0	-0.2
	(前年比)	1.5	0.9	0.1	-0.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	-0.1	0.1	0.0	0.1
コア消費者物価	(前期比)	1.8	1.3	1.2	0.8	1.2	1.3	1.4	1.2	1.1	0.7	1.0	0.7	1.2
	(前年比)	-0.9	-1.6	-2.9	-2.3	-1.7	-1.7	-2.5	-3.3	-3.0	-2.8	-1.8	-2.2	-2.7
食料品	(前期比)	-0.5	0.4	-1.7	-2.2	-1.0	1.2	-1.9	-1.3	-2.0	-1.6	-2.7	-2.2	-2.4
	(前年比)	8.1	7.9	7.5	6.0	7.6	7.7	7.3	7.6	7.5	6.4	5.9	5.7	5.2
エネルギー	(前期比)	0.3	-1.9	-8.4	-6.5	-0.2	-5.8	-8.4	-8.8	-7.9	-6.9	-6.4	-6.1	-6.7
	(前年比)	4.6	2.2	-2.6	-3.0	4.5	-2.1	-2.0	-2.4	-3.3	-2.8	-3.1	-3.2	-3.2
住宅用燃料	(前期比)	-4.9	-7.0	-15.5	-11.2	-5.8	-10.5	-16.2	-16.6	-13.8	-12.3	-10.9	-10.5	-11.5
	(前年比)													

注：消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。